関西学院大学リポジトリ
Kwansei Gakuin University Repository

2018年度活動報告 CJP授業 ： インディペンデントスタディ 会話・聴解プレ1・1

著者	阿部 秀夫，蔭山 拓，中野 陽，獅々見 真由香
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	9
ページ	42-42
発行年	2020-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028540

2018 年度活動報告　CJP 授業：
インディペンデントスタディ　会話・聴解プレ１・１

阿部　秀夫・蔭山　拓
中野　陽・獅々見　真由香
（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本クラスは、秋学期に総合日本語プレ 1 あるいは総合日本語 1 に在籍していた学生計 11 名を対象に、並行 2 クラスで行われた。授業は週 3 コマ、全 14 回実施された。本クラスは会話・聴解について、受講者が弱点や学習方法に気づきを得るため、自ら学習目標を設定し、学習計画を立てて実行できるようになることを目標とした。使用教材・リソースは受講者が自身の目標に合わせて選定した。具体的には『みんなの日本語　初級Ⅰ・Ⅱ』の教科書、会話やアニメなどの動画共有コンテンツ、オーディオブック、さらにはクラスメートのような人的リソースの活用なども見られた。

2. 授業内容

受講者はまず、会話・聴解における現時点での課題ならびに普段の学習方法をクラスメートと共有し、その後、学習目標とその達成方法を考え、計画を立てた。毎回の授業は、その日の予定確認、学習、振り返り、という流れで行った。教師は受講生の学習内容や方法について問いかけを行うことで受講生の自律的な学習を目指すことを基本とし、必要に応じてアドバイスを行った。実際に受講者が行った活動は主に以下の 4 例であった。(1)『みんなの日本語Ⅰ』の課末聞き取り問題に取り組む。(2)『みんなの日本語Ⅱ』の苦手な活用をクラスメート同士で出題し合う。(3) 動画共有コンテンツを視聴し、役に立ちそうな表現をノートに記録する。(4) トピックを決め、クラスメートと会話する。また、コースの最終回では、受講者全員で自分が行った学習や活用したリソースを付箋に書き出し、クラス全体で情報の可視化・共有を行った。

3. 成果と今後の課題

受講者からの授業評価は概ね良好であったが、毎回の振り返りの時間があまり有益でなかったというコメントが見られた。これは受講者間のレベル差や活動内容の違いなどに起因すると考えられ、振り返りの方法については見直す必要があるだろう。また、動画共有コンテンツの中には情報・内容や表現に疑問を感じるものもあり、教師としては専門的・教育的な立場から適宜、受講者に助言を行う必要があると考える。